

「黒木小学校の黒木鷹踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立黒木小学校

2 学年・人数

小学4年生から6年生（計20人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

平成30年7月～平成31年1月

黒木校区コミュニティ，大楠神社，黒木小学校体育館，祁答院公民館

（2）発表の日時・場所

平成30年8月13日（月） 黒木夏祭り

平成30年9月15日（土） 大楠神社での奉納

平成30年9月30日（日） 校区合同秋季大運動会

平成31年1月27日（日） 祁答院地域PTA研究大会アトラクション

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）黒木鷹踊り（くろきたかおどり）

（2）由来

昔は，上層の武士が行っていた鷹狩りを芸能化したものであり，もともとは，鷹狩りの餌食になった動物たちの霊を慰める踊りであったと言われている。

（3）構成等

すててこ，笠，扇子，鷹を模した道具を持った鷹匠役（男）が器用に鷹を操る様子と笠と着物を身に付け，棒を持って鷹の機嫌を損ねないように餌師（女）が補助する様子を三味線や太鼓の楽曲に併せて踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

黒木鷹踊りは27年の歴史をもち，数年前までは，黒木小学校児童だけが踊っていたが，校区の伝統芸能の継承を考え，保存会を正式に11年前に立ち上げて活動している。現在小学生4～6年生が20人で活動しているが，踊りの練習は，地元保存会の方や青壮年部の方々を中心に高校生や中学生にも力を借りて，踊りの指導していただいている。中学生が小学生に黒木の伝統をつないでいる踊りである。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら黒木鷹踊りを継承していくために，学校に「黒木鷹踊り保存会」事務局が置かれている。今後も継続して地域と連携して鷹踊りを伝承していける態勢を整えている。また，黒木小学校の小学生による地域塾「黒木地域興しキッズ隊」を結成し，鷹踊りの伝承活動を取組の一つに位置付けている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【4年生児童】

私は、今年初めて鷹踊りを踊りました。中学生に教えてもらったので、一つ一つの動作を覚えるのは簡単だったけど、動作の流れや縦横にそろえるのが難しかったです。夏祭りでは、上手に踊れて良かったです。これからも黒木の伝統の鷹踊りを引き継いでいきたいです。

【5年生児童】

去年踊ったときよりは、上手に踊れたと思います。失敗も少なくなってきました。来年は、次の4年生に教えられるぐらいうまくなって、中学生や高校生のように鷹踊りを教えたいです。

【6年生児童】

私は、今までに鷹踊りを踊ってきて、色々と大変だったけれど、面白かったり、楽しかったりしたと思っています。時々、「弾むように踊る」等と注意された時は、どうやればいいんだろうと思うこともあったけれど、高校生の踊りを見て、自分たちとは踊りの流れや勢い、姿勢がちがうなあと感じました。注意されたことを直すうちに、みんなどんどん踊りが上達するところがよかったです。これからは、中学生になり、みんなに教える側に立つので、私も中学生や高校生のように、上達できるようなアドバイスをしていけたらいいなあと思います。また、来年も踊るので頑張りたいです。

【教職員】

毎年、子どもたちが受け継ぐ「黒木鷹踊り」では、夏休みの練習に行くと、中高生の先輩や保護者、地域の方が指導にあたってくださいます。中には、小中学生時代に黒木小で踊っていたお母さんが、今度は自分の子供たちに熱心に教える姿も見られました。また、夏祭りや神社の奉納、運動会では、地域の高齢者の方々も大変喜んでくださいます。この鷹踊りが、親子、そして地域の絆を深める役割を担っているのだと強く感じました。そんな鷹踊りを今後も郷土全体で守り続けていってほしいと思います。

子供たちは、昨年度新調した真新しい衣装や手具を手に、気持ちを新たに鷹踊りを踊る喜びを味わえたようです。また、子供たちの多くが、地域の伝統を守ったり、黒木校区を盛り上げたりするために、鷹踊りを続けたいと感じているようです。子供たちや地域の期待に応えるために、学校としても児童の引率や踊りの指導などの支援が続けられればと思います。

【保存会・指導者】

黒木に住む若い人たちに「黒木鷹踊り」を継承してほしいです。踊り子は、若さを発揮して、失敗しても堂々と弾むような躍動感のある踊りを見せてほしいです。